

あなたは赦されます！

はじめに

まず、質問から始めたいと思います。無理して、手を挙げなくても結構です。

皆さんが運転をしていて、制限速度を破り、警察に止められたことがある人はいますか？もし止められたことがあるなら、警察官があなたの車まで近づいて来たとき、あなたは何と言ったでしょうか。日本人はアメリカ人よりも少し礼儀正しいかもしれませんが、このような場面で人はいろいろな反応をし、いろいろな言葉を発します。非を認める人もいれば、そうでない人もいます。誰かがスピード違反で警察官に止められ、その警察官があなたの車まで来たと思像してください。警察官は「あなたは制限速度を破りましたね～。ちょっと免許証を見せてください。」と言います。ここで、言わない方が良かったとえをいくつか挙げてみましょう。「悪いけど、免許証がちょっと届かない。このビール、ちょっと持ってて。」「他の車の速度に合わせて走っていただけなんです。私よりずっと速いスピードで走っている人がたくさんいたし・・・」「すみませんが、ちょっと厳しすぎると思います。私の速度は、ただ制限速度より 40km しか超えていないのに。」

これらの反応は、ある人々が神や人に対して犯している自分の罪をどのように見ているかを、ある意味、描写しているようです。自分の罪は大したことないものとして扱い、他人に責任を負わせたり、神様が罪に対して厳しすぎるのだと言ったりする傾向があります。あるいは、自分と他人を比較します。このような人は、神様の道徳的、霊的な律法を破ったことに対して、自分が受けるに値する罰を、神様が見逃してくれることを願い、あるいは期待して、このように比較をするのです。今朝ここに人、あるいはオンラインで見ている人で、まだ自分の罪を悔い改めて、イエス様からの赦しを得たことがない人は、ぜひこのような考え方をしないようにお願いします。人は、明日さえ来るのか分からず、自分の人生がいったん終わってしまうと、悔い改めるチャンスも、やり直すチャンスもないのです。また、あなたの罪のためのイエス様の犠牲による赦しを受けることも、イエス様との永遠の命を得るチャンスもないのです。だからこそ、イエス様が来てくださり、私たちの身代わりに十字架上で私たちが受けるべき罰を負ってくださったのです。イエス様は、へりくだり、信仰を持って、ご自分のもとに来る人、誰にでも赦しを与えるために、ご自分の御血を流して下さったのです。もしあなたがまだクリスチャンになっていないなら、赦しの必要性を真剣に考え、質問などがあれば、ぜひ私や信頼できるクリスチャンの友達と話してください。今日見ている詩篇は、赦しのための祈りです。自分が罪人であることを知り、聖い生き方をしたいと願う人に大きな希望と平安を与える詩篇です。聖書をお持ちの方は、詩篇 130 篇を開いてください。

1 主よ、私は深い淵からあなたに呼ばれる。2 主よ、どうか、わが声を聞き、あなたの耳をわが願いの声に傾けてください。3 主よ、あなたがもし、もろもろの不義に目をとめられるならば、主よ、だれが立つことができますでしょうか。4 しかしあなたには、ゆるしがあるので、人に恐れかしこまれるでしょう。5 私は主を待ち望みます、わが魂は待ち望みます。そのみ言葉によって、私は望みをいただきます。6 わが魂は夜回りが暁を待つにまさり、夜回りが暁を待つにまさって主を待ち望みます。7 イスラエルよ、主によって望みをいだけ。主には、いつくしみがあり、また豊かなあがないがあるからです。8 主はイスラエルをそのもろもろの不義からあがなわれます。(新改訳)

この詩篇は、4つのパートに簡単に分けられます。

詩人の主への絶望的な叫び

主の赦しに対する確信

主への希望の宣言

すべての人が主に望みを置くよう、詩人の勧め

I. 詩人の主への絶望的な叫び

「主よ、どうか、わが声を聞いてください」

まず注目することは、主に向かって叫んでいる詩篇の作者の心の切実さです。

「深い淵から主に呼ばわっています」と言っています。

ここで使われているヘブライ語の言葉は、絶望の淵、死者の住処であるシェオルと呼ばれ、日本語では「黄泉（よみ）」といった場所や感覚を詩的に表現するために使われています。ですから、詩篇の作者は、自分が絶望の淵にいること、落ち込んでいること、そして自分の罪に対して自己嫌悪（じこけんお）に陥っていることを表しているのかもしれませんが。彼は罪を犯したくなかったし、犯してしまったことをひどく後悔していたのです。2節で2回、彼は自分の助けを求める叫びを聞いてくれるように主に頼んでいます。ヘブライ語では、これは神様からのあわれみを求める叫びであることを示しています。

主よ、どうか、わが声を聞き、あなたの耳をわが願いの声に傾けてください。

明らかに彼は自分の罪で悩んでいます。これは、初めて主に赦しを求めに来た人の祈りではありません。主が喜ばれるような聖なる生活を送ろうとしながらも、罪を犯してしまった人が書いたものです。そして、自分が罪を犯したという事実が、彼を深く悲しませたのです。こんなふうにしたことは、あるでしょうか。もしかしたら、ここにいるすべてのクリスチャンがこの詩篇 130 の 1 節と 2 節を書くことができたかもしれません。そして、私たちの何人かは、ただ今、書くことができるかもしれません。このような感情には、良い面と悪い面があると思います。もし私たちが自分の罪を悪いと感じることがないのなら、また、罪を犯しても、それに影響されないのであれば、クリスチャンであろうと、なかろうと、自分の罪が聖なる創造主の目にあって、いかに重大であるかを理解していないのです。このような人は、罪を犯したときに詩篇の作者のような気持ちになれるように祈る必要があるのかもしれませんが。そうすれば、私たちは主の恵みと赦しを決して当たり前と思わないようになるでしょう。そういう意味では、自分の罪について後悔することは良いことですが、良くないことは、クリスチャンが自分の罪のために絶望することです。私たちがまだ罪に悩んでいるために、神が私たちを切り捨てた、または私たちを拒絶したと感ずることです。私たちは死ぬまで、ある程度は罪と闘うことになるでしょう。だからこそ、詩篇 130 篇は敬虔な生き方を望む人にとっての慰めになるのです。

II. 主の赦しに対する確信

A. 主はすべての罪をご存知である

詩篇は 3 節で、作者は非常に重要な問いを投げかけています。

主よ、あなたがもし、もろもろの不義に目をとめられるならば、主よ、だれが立つことができますでしょうか。

ここで「目をとめる」と訳されているヘブライ語は、「記録する」というように、「書き留める、監視する、保持する」という意味があります。それに関連して、神様が知らないうちに誰も罪を犯すことはできないという真理があります。ヘブル人への手紙 4 章 13 節は、そのようなことについて明確に表しています。

造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。

つまり、主はもろもろの不義に目をとめられ、人々の罪を記録しておられることがわかります。このことは、黙示録 20 章 12 節で、イエス様を信じなかった人たちが、天に記録された自分の行ないが裁かれることで明らかにされています。ヨハネは、大きい者も小さい者も、その生きてきた人生に従って、その罪によって裁かれる、と言っています。

B. 「あなたには赦しがあるので....」

では、3 節で「神は私たちの咎を記録していない」とほめかけたのは、どういう意味なのでしょう。もし私たちが創造主を信頼するならば、神様は私たちの罪の記録をきれいに消してくださったのです。詩篇の作者は、クリスチャンにのみ当てはまる素晴らしい真理を指しています。この真理は、神様ご自身が預言者イザヤを通して、同じ真理を宣言されました。

「わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたのそむきの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」

この真理を知っていたからこそ、詩篇の作者は 4 節で次のことを大胆に宣言することができたのです。

「しかしあなたには、ゆるしがあるので、人に恐れかしこまれるでしょう。」

まさに、彼は自分が主に対して多くの罪を犯していることを知っているのですが、この確信があります。主には赦しがあるので！それは、イザヤ書 43 章で、「もうあなたの罪を思い出さない」と言われたことです。これはイエス・キリストによる救いの福音です。あわれみと赦しを求める詩篇の作者の叫びは、神様の偉大なあわれみのゆえに、神様から快い応答を受けるのです。この短い詩篇の中で、彼は 8 回、主の御名を語っています。ヤハウェは、永遠に存在し、常に私たちとともにある神である。神様は変わることもなく、存在される方なのです。私たちの救いと赦し、そして、永遠を完全に信頼することができる変わらないのお方です。

C. 「人に恐れかしこまれるでしょう」

では、主が罪を赦してくださったとき、感謝し、悔い改める罪人たちはどのように対応するのでしょうか。4 節には、私たちは主を恐れかしこむでしょう、とあります。この文脈では、ヘブライ語の単語は、「恐れる、畏敬の念を抱く、尊敬の念を持つ、畏れ多い気持ちを持つ、礼拝する」の意味があります。私たちは、自分がどれほど罪深い存在であることを理解するとき、私たちの罪は、その罪を扱うために、キリストの十字架のような恐ろしくてひどいものが必要であったと理解するとき、赦しと救いという神の無償の贈り物に対する私たちの自然な反応は、当然、畏（いけい）の念を抱くことでしょう。また、赦されているという認識

は、私たちが喜びで満たすはずです。ダビデは重い罪が赦されたことからくる喜びを知り、詩篇 32 篇にこのように書いています。

幸いな者。背きの罪を赦され、罪を覆われた人。幸いな者。主に過ちをとがめられない人。

確かに、私たちがクリスチャンであるならば、私たちの罪は主イエス・キリストの血によって覆われています。そして、私たちが自分の罪深さの自覚と、心の底からの深い重荷がもたらす叫びと、神様の無限のあわれみの理解と、そして、私たちのイエス・キリストへの信仰とを結び付ける時、私たちはダビデと一緒に「私は罪が赦され、自分の罪を負わされることがないと知れて、なんと幸いなことか！」と叫ぶことができます。皆さんはそのような経験があるでしょうか？ あなたは、自分の罪が赦されたことを知る喜びを味わっていますか？

III. 主への希望の宣言

次に、作者は 5 節と 6 節で、確かな希望をもって主を待ち望むことに焦点をあてています。

私は主を待ち望みます、わが魂は待ち望みます。そのみ言葉によって、私は望みをいただきます。6) わが魂は夜回りが暁を待つにまさり、夜回りが暁を待つにまさって主を待ち望みます。

A. 「そのみ言葉によって、私は望みをいただきます。」

作者は 3 回、主を待ち望んでいると言っています。具体的に、何を待っているのでしょうか。確かなことはわかりませんが、もしかしたら、主が来て下さり、彼の心に触れてくれるのを待っているのかもしれない。その重い心に、愛と赦しにあふれるご臨在を感じるために。彼は主が来て下さり、1 節で述べた落ち込みと絶望の淵から自分を引き上げてくれるのを待っているのかもしれない。それは、よくわかりませんが、私たちが知っているのは、彼が待っている間、神様のみことばに望みを託しているということです。私たちは、彼が神のみことばのどの部分を指しているのかを推測することだけできますが、それはモーセの五書、つまり旧約聖書の最初の 5 冊の本にあることばであると分かっています。出エジプト記 34:6-7 にある、神様ご自身がどのようなお方か書かれている素晴らしい箇所かもしれません。

「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。」

詩篇の作者は、この方こそ、自分が祈っている神だと知っていました。この神にこそ、彼が赦される望みを託していたお方なのです。もちろん、私たちは十字架の後に生きているので、新約聖書の赦しの約束もあります。イエス・キリストの十字架のおかげで、私たちが希望を置くことができる約束の一つは、第 1 ヨハネ 1 章 9 節のこの素晴らしい約束です。

もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

B. 「夜回りが暁を待つにまさって」

詩篇 130 篇 6 節では、作者がどれほど熱心に望み、待ち望んでいたかがわかります。エルサ

レムの城壁の上に立って、夜襲をかける敵を探し、暁を待つ夜回りのことを2度にわたって述べています。城壁の上に立ち、矢で射ることができるほど近づいてくる敵にさらされていた状況でした。そのため、夜回りはストレスの多い、疲れる、怖い仕事でした。そのため、見張りをするほとんどの人が朝を迎えることを必死に待ち望んでいたと思います。しかし、彼らは必ず朝が来ることを知っていて、早朝に太陽が空を明るくするのを心待ちにしていたのです。ですから、詩篇の作者にとって、主が自分を赦し、罪の意識を取り除き、絶望から救い出してくださるかどうかという問題ではなかったのです。作者は、ちょうど夜回りが太陽が昇ることを知っているように、主が赦してくださることを完全に確信して待っていたのです。もしあなたが自分の罪に対して罪悪感の重荷を抱いているならば、絶望しないでください。私たちのあわれみ深い、恵み深い神様に、信仰をもってへりくだって叫んでください。

IV. 主に望みを置く

詩篇は、神様の民が主に希望を抱くようにという勧めで終わっています。

イスラエルよ、主によって望みをいだけ。主には、いつくしみがあり、また豊かなあがないがあるからです。主はイスラエルをそのもろもろの不義からあがなわれます。

なぜ、私たちは主によって望みを抱くことができるのでしょうか。なぜなら、主には揺るぎない愛があり、豊かな贖いがあるからです。ここでまた、多くの詩篇に見られるように、ヘブライ語の「ヘセド」という単語があり、それは神様の民に対する揺るぎない、忠実な、契約上の愛を指しています。日本人の皆さんは、このことを念頭に置いて詩篇を読まれることをお勧めします。詩篇にある「恵み」という単語を読む時に、それは「恵み」ではなく、「神様の揺るぎない、忠実な、契約上の愛」という意味であることを覚えておいてください。

結論

私たちの造り主は、なんと愛とあわれみにあふれたお方でしょう。

主がこの詩篇をみことばの中に書き記されたのは、ご自分の子供たち、そしてその子供になるろうとする者たちが、自分の罪のために過度に絶望しないようにするためなのです。もちろん、私たちの罪はひどいものです。そして、サタンはそれらを利用して、私たちがクリスチャンとして失敗者であると、思わせようとするのです。サタンは、私たちが救いの確信が持てなくなると、悪霊の嘘のターゲットになりやすいことを知っているのです。私たちの救いの確信は、感情に基づいてはいけません。イエス・キリストを信じているならば、私たちは神様の目から見て、聖なる存在であるという事実に基づかなければならないのです。クリスチャンとして、私たちがキリストの義によって神の目の前で義と認められていることを理解し、信じることが重要です。それは、私たちが完璧な人生を送るからではなく、キリストに信仰を置いたからなのです。私たちは、どんなに信仰が強くても、どんなに主に献身していても、罪のない人間になることはできないのです。もし、あなたが罪を犯した時に悲しみ、主に赦しを請うならば、しかし、誰かがあなたの耳元で、「お前は失敗者だ、イエスの恥だ、イエスを喜ばせることはできない」とささやいているような気がするならば、あるいは、「お前は神の子としてふさわしくないし、神のあわれみと赦しに値しない」とか、そういったささやきがあるような気がするならば、このように答えましょう。

「私は神の愛とあわれみと赦しを受けるにふさわしくない者だと知っているが、それは問題ではありません。もし、神が不義に目をとめられるなら、私は神様の¹¹御前に立つことはで

きないでしょう。しかし、¹神のもとには恵みと赦しがあります！神には揺るぎない愛と豊かな贖いがあるのです。私の希望は主にあり、イエス・キリストを信じる信仰によって、私は主の目から見て正しいのだと知っています。だから、そうです、私はふさわしくないけれど、私は赦され、贖われたのです！」
主を讃えます！！

あなたは今まで、詩篇の作者のような気持ちになったことはありますか？また、そのような気持ちにどのように対処していますか？あなたは今、自分の人生の中で何らかの罪のために、罪悪感に苦しんでいますか？もしそうなら、イエス・キリストとそのみことばの約束を信頼し、あなたを赦し、清めてくださるようお願いしましょう。では、今、この質問について考えてみましょう。

祈りましょう。

あわれみ深い天のお父様、あなたは私たちを赦し、私たち一人ひとりをあなたの子となるように望んで下さっておられることに感謝します。あなたの揺るぎない愛と恵みに感謝します。私たちが、罪赦された者として生きる祝福を体験できることを感謝します。ここにおられるお一人おひとりに、またオンラインで参加されている方々が、イエス様を主として、また救い主として信頼することで祝福を受けることができるようにお助けください。私たちの慈悲深く忠実な主、イエス・キリストの御名により、このように祈ります。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてください。主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。アーメン